

# 指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大学／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

## ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

### ことば P.4~5 動詞

**ねらい** 絵を見ながら動きをまねしたり、絵と同じ動作をしたりすることを通して、動きを表す言葉である「動詞」について学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「マッキー、楽しそうね。何をしているのかな?」と問いかけます。答えに迷う場合は「走っているのかな? 歩いているのかな?」と具体的に聞いてもよいですね。

#### 展開の言葉かけのヒント

進む道の選択ができれば、「マッキーといっしょに歩いてみようか」と言って、動きをまねてみましょう。実際の動きを体験することで、楽しみながら動詞を理解できるでしょう。また線をなぞる活動が終わったら、身近なほかの動きを見せて、動詞の当てっこをしても楽しいですね。

#### ● 小学校へのつながり

動詞の理解は小学校からの文法学習につながります。幼児期には意味を具体的にイメージできることがたいせつです。動詞の意味を身体や擬音語・擬態語で表現できるとよいでしょう。



### ことば P.6~7 形容詞

**ねらい** 絵を見てそれぞれの言葉の意味や対義語を確認しながら、ようすを表す言葉である「形容詞」について学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「わあ、ナッキーがたいへん! 人参が切れないよ~って言うみたいだね」と、絵を見ていっしょに確認し、「これはどんな人参なのかな?」と聞いてみましょう。

#### 展開の言葉かけのヒント

「ほかにも丸いもの、あるかな?」「柔らかいもの、あるかな?」と、身近なものの中から絵と同じ形容詞が見つかるものを探してみましょう。ひと通り線をなぞる活動が終わったら、「暑い、寒い」「大きい、小さい」などジェスチャーで示し、当てっこをしても楽しいですね。

#### ● 小学校へのつながり

形容詞の理解も文法学習につながります。「冬は寒くて夏は暑いね」「昨日のお風呂は熱かったけど今日はぬるいね」など生活の中で対義語や類義語に気づかせ、語彙を増やしていけるとよいですね。



### ことば P.8~9 助数詞

**ねらい** 絵と言葉に対応させて、ものにはいろいろなかぞえ方があることを知り、もののかぞえ方である「助数詞」を学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「『まなびきっず』の本があるね。これは、どういうふうにかぞえるかな?」と問いかけ、答えに迷う場合は「一冊かな? 一冊かな?」と具体的に聞いてみましょう。

#### 展開の言葉かけのヒント

一つひとつ確認しながらゴールまでたどり着いたら、絵で表されているものを「一冊、二冊……」と10までかぞえてみましょう。「いっぱい」「ほん」「さんぼん」などのように、数によって多少言い方が変化するものがあり、「あれ、少し違うね」と気づくのも楽しいですね。

#### ● 小学校へのつながり

助数詞はかぞえるものの形状や機能などによってつかい分けられます。細長いものは「本」、薄いものは「枚」、大きい生きものは「頭」といった原則です。幼児期にももの形や機能に興味をもつことが、小学校以降の正しい言葉の使用や豊かな言語感覚につながります。



# かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

## すうじ P.16~17 5の分解合成

**ねらい** 片手の指の数である「5」という数字の単位を「1と4」「2と3」などに分解したり合成したりしながら数を学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「パーベキューって、したことあるかな？ 5人で食べたいけれど、材料がまだまだ足りないよ。シールを貼ってみんなが食べられるようにしようね」と投げかけます。

### 展開の言葉かけのヒント

「1、2、3、4……」と野菜などの絵の部分の指で押さえながら、いっしょにかぞえてみましょう。わかりにくい場合は、5人の友だちや家族の名前を言いながら、「これは〇〇ちゃん分、これは××ちゃん」と、1対1の対応をして全員分を確かめていくとよいですね。

### ● 小学校へのつながり

数の合成と分解は、算数の加法・減法の学習につながります。5は1と4でできているという集合数の考え方、1はあと4つで5になるという順序数の考え方の両方に触れられるとよいですね。



## かず P.18~19 順序数(右・左)・集合数

**ねらい** 物の集まりの大きさを表す「集合数」と、ある物の順番を表す「順序数」の違いを理解しながら学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「材料を中にさして準備しようね」と声をかけます。シールを貼る前に、右と左の確認や右から1つ、2つと、あらかじめ指で差して言うてもよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「右から2つ」と「右から2番目」の区別が難しい場合は、「右から2番目はソーセージだけだね。右から2つは、ピーマンとソーセージのことだね。これは、右から2つ全部ということだね」と最初に確認するとよいでしょう。身のまわりの物もかぞえてみると楽しいですね。

### ● 小学校へのつながり

順序数、集合数も加法・減法の学習につながります。「いくつ?」→「〇つ」が集合数、「何番目?」→「〇番目」が順序数を表す言葉であることを意識づけるとよいでしょう。



## かたち P.22~23 描写(点とばし)

**ねらい** 見本をよく見ながら点と点をつないで形を描く練習をします。今月からは1点とばしで2点をつなぐ描線も学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

「星座って知っているかな？ 昔の人は夜空の星を線でつないで、いろいろな形に見立てたんだよ。みんなも星をつなげて形を書いてみようか」と声をかけます。

### 展開の言葉かけのヒント

1点とばしが難しい場合は、「どの星とどの星をつなぐのかな?」と最初に指で確認してから線を引くとよいですね。定規をつかわずにまっすぐ線を引くのは、おとなでも難しいですが、集中していいねいに取り組みるように「線を引くのはゆっくりでいいよ」と伝えるとよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

描写する力は、漢字や図形の学習につながります。上下左右何番目の点から何番目の点へ線を引くのか、順序数と関連させて学べるとよいでしょう。



# くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

## くふう P.28~29 系列

**ねらい** ものの順序の決まりを把握して、ゴールを目指して迷路遊びを楽しみながら規則や法則を学びます。

### 導入の言葉かけのヒント

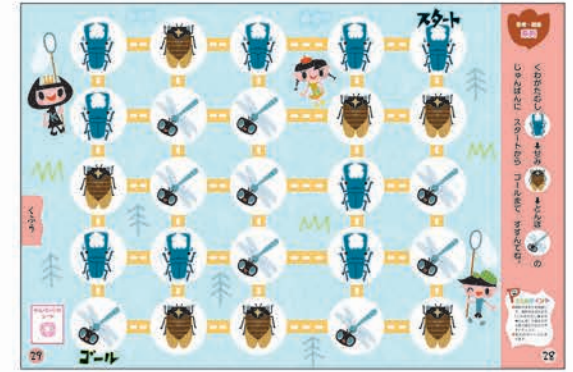
「みんなの好きな虫がたくさん！ 順番に捕まえながら進んでいこうよ」と導入します。「クワガタムシ→セミ→トンボ」と、いっしょに言いながら進むとよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

間違えて進みそうになったときには、「次は僕だよ〜ってトンボが言っているけど、だいじょうぶかな」と気づきのヒントを伝えてもよいでしょう。無事にゴールしたら「全部で何匹捕まえたのかな?」「捕まえたクワガタムシは何匹かな?」などと、それぞれかぞえてみるのもよいですね。

### ● 小学校へのつながり

複数の選択肢の中から一連のパターンを探し出す活動は、記憶力、集中力を高めます。多くの刺激の中から必要な情報に集中する力は、小学校での学びに向かう力の基礎となります。



## くふう P.30~31 比較

**ねらい** 4つのものを比較して、それぞれの共通性や差異性を発見し、それらを言語化する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「僕だけ違う仲間だよ〜」と言っているのはだれかな?と導入します。答えがわかったら「どこが違うのかな? よく考えて教えてね」と聞いてみましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「犬と猫と鳥は鳴いたり吠えたりするけれど、ウサギは鳴かないから」という独自の答えが出てきても否定せずに、「そういう仲間分けもあるね」と認めましょう。その上で「鳥は空を飛ぶけれど、ほかのものは飛べないよね」とほかの分類のヒントを伝えていきましょう。

### ● 小学校へのつながり

共通点、相違点を見つけ、分類する力は、語彙習得や理科の生物などさまざまな学習に関連します。何の仲間か上位概念に気づかせ、概念の階層化を促しましょう。



## くふう P.32~33 判断

**ねらい** 絵を見比べて全体像を把握し、部分的な違いを判断して、それらを言語化する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「似ているけれど、少し違うよ。どの影が本物か、わかるかな?」と声をかけます。わかりにくい場合は、帽子の形などの細部をいっしょに確認していくとよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

正解がわかったら、どうしてそう思ったのか、違いを言葉にしてみるとよいでしょう。実際に指で影の形を作って壁に映してみたり、影でいろいろなポーズを作ったり、影踏み遊びに発展させても楽しいですね。物の影を映してみても、何の影か当てっこするのもよいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

全体像を把握しつつ、細かい部分の特徴を抽出する活動は、図形や図表などの学習につながります。また、注意力や注意を持続する忍耐力など、学びに向かう力も育みます。

